

広島西部山系直轄砂防事業

直轄の必要性

広島西部山系管内には、中国地方を東西に結ぶ主要交通網が横断しているため、災害が発生した場合に、その影響が広域にわたること、宅地開発により砂防施設の設置にあたり、その位置が制限されること、団地等の一連の保全対象に複数の危険渓流のはん濫区域が重複しているため、集中的な投資により効率的な施設整備が必要なことから、直轄砂防事業を実施しています。

ハード対策においては、地元の皆さんの声を取り入れ、地域に親しまれるとともに、環境面にも配慮した土砂災害防止施設の重点的・効率的な整備を推進しています。

また、ソフト対策では、広島県や関係市と連携を図りながら、避難訓練等防災活動の支援や、小学校への出前講座等防災意識の向上に向けた取り組みを積極的に進めています。



相田3号砂防えん堤(広島市安佐南区相田地区:平成19年5月完成)

ハード対策

土石流から住民の皆さんの生命や財産を守るうえで、砂防えん堤などの施設整備は大きな効果を発揮します。平成15年6月に砂防えん堤の工事に着手し、平成22年3月までに29基の砂防えん堤が完成しています。

今後も、自然環境や住環境に配慮しながら、各地域での施設整備を進めていきます。



海田ヶ原砂防えん堤(広島市安佐南区相田地区:平成18年8月完成)



赤土地1号砂防えん堤(広島市佐伯区:平成20年9月完成)

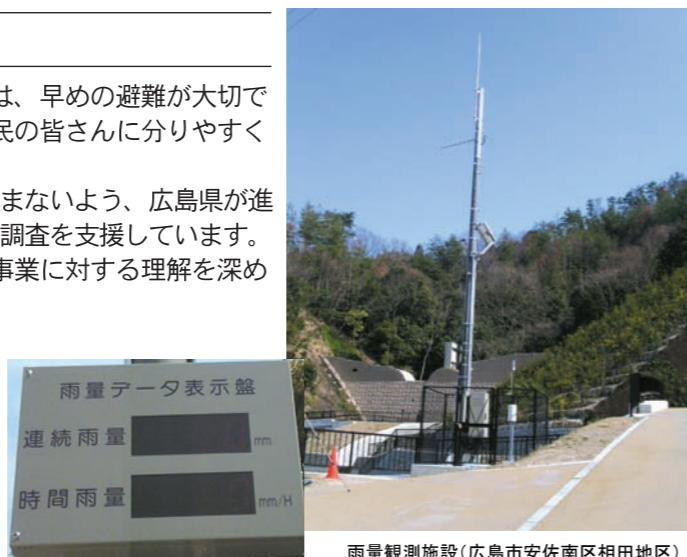
ソフト対策

いつ発生するか分からない土砂災害から身を守るためには、早めの避難が大切です。その警戒や避難のために欠かせない雨量情報などを住民の皆さんに分かりやすく伝えるシステムの整備を進めています。

また、谷出口などの危険な土地に新たに住宅開発などが進まないよう、広島県が進めている土砂災害のおそれがある区域などを指定するための調査を支援しています。

あわせて、地域の皆さまに土砂災害に関する知識や砂防事業に対する理解を深めていただくための啓発活動も積極的に実施しています。

また、「砂防出前講座」を実施しています。この講座は地域の皆さまに砂防についての興味を持っていただき、防災の学習活動に役立てていただくため、地域の学習会や管内の小中学校の授業に職員が講師として出向くものです。砂防事業や防災対策などについて、土石流模型実験装置を用いた体験等を行うことが可能です。是非ご利用ください。



雨量観測施設(広島市安佐南区相田地区)



土砂災害防止月間(6月)に行った砂防出前講座の様子



土石流模型実験装置を用いた砂防出前講座の様子

景観に配慮、緑化対策

砂防施設の整備にあたっては、都市周辺の貴重な自然環境の保全に努めるとともに整備箇所が住宅地に近接していることから景観にも配慮しながら整備を進めています。

砂防施設周辺の緑化にあたっては、地域の自然により深い関心と愛着を持っていただくとともに、防災意識や砂防事業に対する知識の向上を目的に、地域住民と一緒に、その土地に本来生息している木を植えて山の斜面が崩れないようにする山腹工などの対策を行っています。

また、砂防えん堤の下流側に現地発生した土砂を盛り、木を植えて砂防えん堤を目立たなくするなど景観との調和を図る工夫もしています。



下流側を植樹した湯舟砂防えん堤(大竹市湯舟地区)

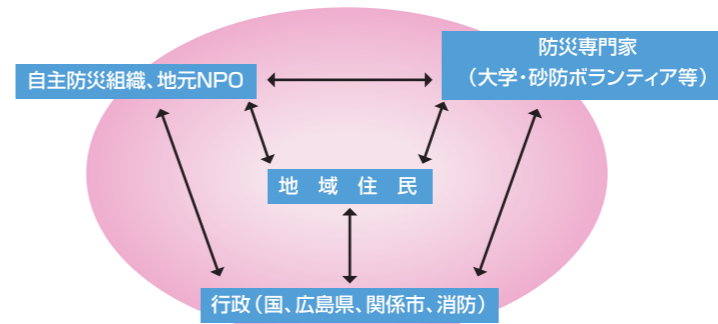


地域住民との植樹の様子(平成17年3月 大竹市湯舟地区)

自助・共助・公助が一体となった土砂災害対策

災害による被害を軽減するためには、自分の身は自分で守る「自助」、みんなが助け合って地域の安全を守る「共助」、国や県等が行う防災対策「公助」の3つの力が連携することが必要です。広島県、関係市とともに近年頻発する土砂災害に対し、地域の活性化とともに地域防災力の向上を目指し、総合的な土砂災害対策として地域住民と連携した効果的・効率的な土砂災害対策の推進を行っています。

自助・共助・公助が一体となった総合的な土砂災害対策の推進連携イメージ



溪流点検(大竹市:地域住民との連携)